

■タイトル

大分のしいたけを未来へ繋ぐ守り人。



姫野武俊 姫野一郎商店

大分県でしいたけ栽培が始まったのは江戸時代の初期。クヌギの原木にコマ打ちをする原木栽培という方法で、しいたけ栽培が盛んに行われるようになりました。クヌギの森が多い竹田市でも生産者が増え、一躍しいたけの名産地としてその名を馳せることとなったのです。

そのしいたけを買い付け、広く消費者のもとへと届けていたのが、椎茸問屋の走りである明治10年創業の「姫野一郎商店」。現在は五代目となる姫野武俊さんが、歴史を守り続けています。



幼い頃から事業を継承しなければならないという使命を持っていた姫野さんは、高校卒業後、東京の大学へ進学。商業から経済までの基礎知識を幅広く学び、その後知見を広めるため小売大手の企業へ就職しました。配属先となった神戸の店舗で忙しく働いていた際には、阪神・淡路大震災に見舞われ、大変な時期を過ごしたそうですが、それでも業務内容は面白く仕事に熱中していたと言います。

そうして「もっといろんな世界を見てみたい」と海外への留学を考えていた矢先に、転機が訪れたのです。姫野さんの祖父である三代目が急逝。父親からの連絡を受け、事業をサポートするために27歳で急遽地元へ戻ることになりました。

小売業を学んでいたとはいえ、問屋業は勝手が違い、いきなり即戦力とはなれなかったという姫野さん。最初はとても苦労したそうです。

そもそも「姫野一郎商店」の始まりは約140年前、提灯やろうそくを扱う「姫野商店」として創業し、2代目の姫野勝太郎さんが当時高級品だったしいたけに目をつけ、乾しいたけなどの山産物の取り扱いを始めました。生産者が住む山奥までリヤカーを引き、収穫されたしいたけを買い付け、現金と交換。直接買い付けを行っていたため、信頼が厚く、評判は上々だったそう。そうして三代目の一郎さんの時に「姫野一郎商店」という会社が立ち上がり、今に至るのです。

つまり、大事なのは生産者との信頼。

「生産者と顔見知りになってしっかり信頼関係を作っていないと、売ってもらえない。品物の目利きができて、相場にあった適正な価格で買ってくれるという信用がないと難しい商売なんです。それを父親の背中を見ながら学ぶのに10年かかりました。父は平成18年に亡くなりましたが、その前に一緒に事業をして学ぶことができたからこそ今も家業を守れているんだと思います」

5代目として代表に就任して15年。現在も父親から学んだ目利きを活かして、生産者から買い付けを行っています。時代の変化とともに乾しいたけを取り巻く環境は変わってきました。

生産者の高齢化と食生活の変化が大きな原因です。

「弊社は、生産者と契約を結び、この量があればこの価格で買いますよという全量買い付けを行っています。しかし生産者の高齢化が進み、栽培をやめたり、小規模にする農家さんが増えており、生産量が減少。さらに手軽に使える調味料なども増えたことから乾しいたけの消費量は昔に比べ10分の1程度まで減っています。その中でより良い商品を届けるため、今は農協からの仕入れも行ったりと、生産者に直接『この品種が肉厚で美味しいと消費者に人気なので、作ってください』と品種の指定をして、なるべく高い価格でたくさんの量を買付けすることで、生産者の支援も行っています」



お歳暮お中元のギフト需要も厳しくなっているようですが、ふるさと納税での需要や健康食への意識の高まりから、スーパーでの売上げが好調になりました。時代の流れによって変わる販路。これからは新たな商品の販売も考えているそうです。

「ギフトや家庭内での消費需要は無くなるわけではないですけど、でもコロナ禍のように何か起きた時にも対応できるよう、柱を増やしておきたいと思っています。今も加工品の製造はしていますが、これからはしいたけを使ったより利便性が高い商品や、しいたけを粉碎したパウダーを使った商品、しいたけの高い栄養価を活用したサプリなどにも取り組んでいきたいですね」

業界として厳しくなっている中で、しいたけの消費拡大を目指し、加工品の展開を広げるほか、オンラインショップを開始。また若い人でも手に取りやすいよう社内デザイナーを雇い、パッケージを見直すなど様々な施策を打ち出す姫野さん。



「生産者がいなくなるのが一番困ることなので、生産者を守りつつ、消費拡大に向けた取り組みを続けたい」と、大分が誇る特産品とそれに関わる生産者、そして明治から続く「姫野一郎商店」を守り続けるため、姫野さんは新たな一手への挑戦を続けています。

プロフィール

姫野一郎商店 代表取締役 姫野武俊

昭和44年生まれ。高校を卒業後、東京の大学に進学。「ダイエー」に入社し、小売業について学ぶ。27歳の時、当代表を勤めていた祖父の急逝により地元・竹田に帰郷。明治10年に創業した老舗椎茸問屋を父とともに切り盛りしていくことに。平成18年に父親が亡くなってから5代目代表に就任。先を見据えた経営戦略で、140年以上続く家業を守り続けている。



【姫野一郎商店 事務所】

住所：竹田市大字会々2718

TEL：0974-63-2853

営業時間：9:00～17:00

【姫野一郎商店 店舗 茶房ひめ野】

住所：竹田市大字竹田町239

TEL：0974-63-2385

営業時間：9:00～17:00

<https://shiitake-himeno.co.jp/>